富山県邦楽協会々報
第200号
令和6年11月20日発行
富山県邦楽協会
会長　河崎 雅都美
高岡市本丸町4番22号

会報第200号に寄せて

会報二百号の記念を迎えて

富山県邦楽協会会長　河崎　雅都美

二百号目の会報が刊行されるにあたり、此れまでの先輩諸先生方の営々と続けてきて下さった御努力と忍耐に心からの感謝の念を捧げます。初期の頃の会報の内容はそれぞれの先生方の気構えと申しますか、会員に対する啓発的な文章が多く、当時の世情もそういう時代であったのかなと懐かしく思ったりしています。

今は、会員の皆さんの自由で素直な気持ちや感想の発露となっているようですが、いずれにしろ、此処まで継続に携わってこられた方々や現編集者も含めての皆様にお礼の言葉を申し上げこれからも、一層充実した会報になりますよう念じ上げております。

祝辞　富山県邦楽協会　会報第二百号

富山県知事　新田　八朗

富山県邦楽協会会報第二百号の発刊を心からお祝い申しあげます。

貴協会には、昭和三十二年の創立以来、箏、尺八、長唄、琵琶、小唄、鳴物の六分野十四流派を網羅する団体として、日本の伝統音楽である邦楽の継承・普及・発展に多大なご貢献をいただいています。この間、春の邦楽演奏会や秋の邦楽鑑賞会、分野や流派を超えたジョイント・コラボなどの多様な演奏会だけでなく、各種講習会での演奏技術の研鑽や青少年合奏団の結成を通じた後進育成などの多岐にわたる活動を展開されています。

ここに、河崎雅都美会長をはじめ、会員の皆様の長年にわたるご努力に対し、深く敬意を表します。

貴協会の皆様には、このたびの会報第二百号発刊を弾みとして、ますますご活躍されますとともに、今後とも本県芸術文化の振興に一層のお力添えを賜りますようお願いいたします。

本県としましても、文化にふれあう機会の充実など、芸術文化の振興を通じて、富山県で暮らす人も、訪れる人も幸せを実感できる「幸せ人口一〇〇〇万～ウェルビーイング先進地域、富山～」の実現を目指してまいります。

結びに、富山県邦楽協会の限りないご発展と河崎会長をはじめ役員、会員の皆様の今後ますますのご健勝、ご活躍を心からお祈り申しあげます。

お祝いの言葉

富山市長　藤井　裕久

このたび、富山県邦楽協会々報の記念すべき第二百号を刊行されますことを心からお祝い申し上げます。

富山県邦楽協会会員の皆様方におかれましては、昭和三十二年に創立されて以来、日本古来の邦楽文化である箏・尺八・長唄・琵琶・囃子の本道を追求され、その普及や振興にご尽力されていますことに深く敬意を表するところです。

さて、価値観が多様化する現代社会では、市民一人ひとりが真に潤いと心の豊かさを実感できる、質の高い生活環境が求められており、とりわけ芸術文化に対する期待や関心は一段と高まっています。このため、本市では、これまで地域で育んできた歴史や文化を貴重な資源として、その保存や活用に努めているとともに、次世代への継承に向けて各種施策に鋭意取り組んでいるところです。

このような中、伝統ある貴協会の様々な功績が記されました会報が、六十余年にわたり連綿と継続されましたことは大変意義深く、また大変なご苦労があったものと推察しています。これはひとえに歴代会長をはじめ、会員の皆様方の情熱や日々の研鑽の賜物であると重ねて深く敬意を表するところです。皆様方には、今後とも意欲的な活動を展開され、本市の芸術文化の振興により一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、富山県邦楽協会の限りないご発展と、皆様方のますますのご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げましてお祝いの言葉といたします。

「阿波の風」　令和6年10月20日 邦楽鑑賞会

会報第200号に寄せて

祝辞 会報二百号

（一社）富山県芸術文化協会会長　伊東　眞

会報二百号おめでとうございます。

西泰蔵賞が第三代会長由来の賞と後に知りました。県芸文協に勤めた頃、県邦楽協会会長は第四代黒坂富治先生、校歌を作曲、県内民謡研究者でもありました。第五代会長は京谷準一先生、かつて県教委社会教育主事をつとめ、県芸術祭を企画、各分野で県内芸術協会団体結成を呼び掛け、邦楽協会も設立されました。

事務局等は井上管山先生とその御家族、尺八は細野塔宇山先生、第七代会長中島浩山先生がまとめられ、箏曲は河崎雅伸先生が主導し、雅都美先生がてきぱきとお世話されていました。いま第八代会長です。

歴代会長、役員、事務局の皆様が、県内邦楽の振興と技術向上、交流のため尽力されてきました。

県芸術文化指導者招聘事業では、講師のお世話、邦楽オーケストラのとりまとめ、国民文化祭への派遣など、流派やジャンルを越えて協力されてこられました。

中学生が全国入賞し、ハンガリーのオーケストラとの合奏に同行したこともあります。黒川真理さんはじめ国内外で箏や尺八など邦楽の魅力を伝えて活躍されています。

人間国宝の熟達した巧みな技の演奏に酔いしれることもあり、和音階の箏や三味線、尺八や長唄、琵琶の音色や鼓の響きが心の奥底に共鳴し、胎内に帰る思いにもなります。記憶の深奥に蓄積し、感性を作り上げるものと存じます。

邦楽は学校教育に取り入れられ、若い層へ日本文化をつなぎわたす意義を果たされてきています。

年齢を越え、国境を越えてその魅力を伝え、地域の芸術文化の普及振興に尽力されている皆様に深く敬意を表します。

これからも邦楽協会が、時代とともにますます発展されますことを心より願っております。

会報二百号記念に寄せて

富山県邦楽協会顧問　川倉　美津留

富山県邦楽協会の会報は、ついに二百号をむかえました。誠にめでたく感激でいっぱいでございます。思えばこれもひとえに、昭和三十二年の一号より今日まで、立派な先人諸氏並びに皆様の御力添えの賜と心より感謝申し上げます。

気が付けば設立間もなく当協会に入会し、それ以来、昭和・平成・令和と今日まで会員となっておりました。月日の流れの速さと重みを改めて感慨深く思っております。

多くの思い出の糸を手繰（たぐ）れば、あの時この時のいろいろの舞台が走馬灯のように懐かしくよみがえってまいります。

私事ながら、若き日に尊敬申し上げ御恩になりました、人間国宝故菊原初子先生に、ある祝宴の折、お扇子を頂戴いたしました機会がありました。それには、直筆にて「道一すじ」と書いてございました。幼少の頃より興味を持った楽器が、高齢の現在まで離れられない存在になるとは、まさにその通りだと思います。

長い年月、当協会の演奏会に出演させていただきまして私は本当に幸せ者でございます。

お箏（こと）人生

富山県邦楽協会副会長　富士原　文以千乃

富山県邦楽協会の会報が今回二百号として発行されると聞き、時の流れをひしひしと感じています。

平成十九年十月に創立五十周年記念誌が刊行されました。それに目を通しているうちに、今は亡き多くの先生方のお顔とお名前が脳裏によぎります。昭和六十三年春季演奏会は八尾町曳山会館で行われました。その下見に八尾に来られたのが宮原龍山、細野塔宇山、米沢敏山、の各先生方など私宅に立ち寄られたことも懐かしい想い出です。

話は変わりますが、私は中国の武漢で生まれ、四歳の時に命からがら親子四人で実家のある水橋町に帰ってきました。武漢には男女の人足さんが沢山いて「引き上げる時には泣いて別れをしてきたのよ」と母がいつも言っていました。

まず実家で驚いたのは祖母がいつも何か音の出るものをさわっていました。何だろうこの綺麗な音を出すものは……後になって曲は「六段の調」で楽器はお箏というものであることを知り、そこから私のお箏人生が始まりました。しばらくして叔母が東京にあるお箏の家元より実家に帰りお箏を教え始めました。まだ富山市公会堂があった頃、叔母とお弟子さんたちと出演していました。田島昇山先生、川倉美雪先生の演奏もよく

会報二〇〇号の歩み

■昭和三十二年九月八日
初代会長　高辻武邦
第一号発行　毎月発行

■昭和三十九年
清元、義太夫なども加入
第二代会長　横山四郎右衛門
第七八号発行
これより二〇年間休刊

■昭和四十年中頃
第三代会長　西　泰蔵

■昭和五十九年一月
第四代会長　黒坂富治

■昭和六十年十一月二十三日
復刻　富山県邦楽協会会報刊行
扉文字は福光玲子史
第一号より第七八号までを収録

■昭和六十一年四月二十日　第七九発行
題字は黒坂富治会長
以後年四回の発行となる

■平成三年七月一日　第一〇〇号発行

■平成六年四月
第五代会長　京谷準一

■平成十三年四月
第六代会長　正橋正一

■平成十三年六月一日　第一三九号発行
これより年三回の発行となる

■平成十四年三月十三日発行　第一四一号
カラー写真になる

■平成十七年四月
第七代会長　中島浩山

■平成十九年十月二十五日
創立五十周年記念
復刻富山県邦楽協会会報第二輯刊行
扉文字は福光玲子史
第七九号から一五六号までを収録

■平成二十六年四月
第八代会長　河崎雅都美

■平成二十九年五月二十九日　第一八七号
これより年二回の発行となる

■令和六年十一月二十日　第二〇〇号発行

■令和五年八月二十五日
富山県邦楽協会ホームページ開設
会報を掲載

会報第200号に寄せて

聞いていました。演奏会が魚津や城端であったりしたときは、汽車でお箏を網棚に乗せて運んでいたことが思い出されます。

私はこの年齢になってもお弟子さん達と演奏したいという気持ちを強く持っています。もう少し頑張ってみたいと思っています。

最後になりましたがこの会報にたずさわれた方々に感謝申し上げます。

祝 富山県邦楽協会会報二百号発刊

富山県邦楽協会理事　杵屋　弥三貴美

思い返せば昭和三十二年七月、私の父である都山流「田島昇山」を先達として、当時の邦楽に携わる各界の指導者達に声をかけ、邦楽の振興発展の為、日本文化の伝承に努めるべく各部門を一丸とする「富山県邦楽協会」が発足し、会員相互の親睦の為の会報も毎月一回発行されました。それ以来、昭和、平成、令和の長きにわたり受け継がれてきた発刊に携わる人達の努力の足跡が、会報第一輯、第二輯に集録されました。発刊当時の会報を紐解いてみますと、印刷や写真技術は未熟ながら、内容は自由闊達で面白く、芸道論、短歌、俳句、旅行記あり読み物が一杯。しかしながら、どの年代の会報にも熱く語られているのは、社会や教育面で日本の伝統音楽に対する理解が少ない事と、その行く末を案じる文でした。令和に入って社会の関心度が高まったかについては残念ながら疑問を持たれる方も多いかもしれません。

時代は移り、会報の在り方も変わりカラフルで見易く美しいものになりました。この陰には裏方の仕事なしでは考えられません。原稿の依頼、写真や文章の配置の打合せ、印刷等々から成り立っています。

私も少しでも会報係のお手伝いが出来た事と二百号発刊に生き合わせた喜びをかみしめております。

代々の会報係の方達のご努力の賜物と各界の先生方の熱意を持って受け継がれてきた会報は、新たな時代に応じて進化し、益々素晴らしい会報となって行く事を期待し念じております。

三つの挑戦

富山県邦楽協会監事　岡部　康宇山

現在、邦楽協会では三つのことに挑戦しているように思われます。

一つは、令和四年度まで実施の「県民ふれあい公演」と「芸術文化指導者招へい事業」の後継事業として、昨年度からスタートした「富山アーティストマッチング事業」への取り組みです。

二つめは、演奏会開演前の和楽器の展示と体験コーナーの取り組みです。「和楽器に触れてみませんか?」のチラシ効果か、最近来場者の方に和楽器に触れていただく機会が増えたような気がします。

三つめは、令和五年八月二十五日に開設された富山県邦楽協会ホームページです。これまでは、年二回発行の会報が予定や活動状況を知る情報源でしたが、ホームページの開設により、新しい情報を誰でも何時でも速やかに知ることができるようになりました。これからの情報のツールの変化の布石となるのではないでしょうか。

このように橘事務局長を中心として、皆様は相当な努力をされ実績を積まれてこられました。

この三つの挑戦が長く定着するには会員皆様のご協力が欠かせないと思いますので今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

パティオ

長歌「月の兎」を想う

富山交聲合唱団代表　黒坂　康之

（黒坂康之さんは、第４代黒坂富治会長のご子息です。現在は富山交聲合唱団の代表をされています。）

良寛の長歌に「月の兎」がある。

今昔物語にある説話で、ひもじい旅人に扮した神（帝釈天）へ兎は何も施すことが出来ず、自らの身を食べて下さいと火に飛び込んだ。その自己犠牲の心に良寛は大変感動しこの歌を詠んだ。これを黒坂富治は和楽的旋律をもって作曲し作曲集「良寛さまのうた」の巻頭においている。勿論原曲はピアノ伴奏によるものだが、箏は宮城会の久保八恵子氏に、尺八は都山流の米沢敏山氏により邦楽の伴奏に編曲された。今日まで富山交聲合唱団により幾度も演奏されており、箏は宮城会社中の方々、尺八は米沢敏山氏、中島浩山氏、井上管山氏らの面々による邦楽伴奏によっても幾度と披露されて来た。この「月の兎」には兎の他に猿、狐、翁が登場するが、翁役として初代は濱野廣氏、二代目は牧野好男氏、三代目には私が歌わせてもらった。またいつの日か邦楽伴奏で演奏できる機会があればと懐かしく回想している。

良寛の「月の兎」の翁役
三代目を継ぎ我は唱する

訃報

中島浩山 師 逝去

尺八演奏家で富山県邦楽協会名誉会長の中島浩山師（本名 博）は九月十二日逝去なさいました。九十五歳でした。

師は、平成十七年より十年間富山県邦楽協会会長を、平成四年より二十年間都山流尺八楽会の富山県支部長を歴任、多くの業績を残されました。平成二十五年は地域文化功労者文部科学大臣表彰、令和六年には（一社）富山県芸術文化協会特別功労表彰を受賞されました。業績に敬意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

令和7年度　第69回

富山県邦楽協会総会

日時 令和7年4月13日（日）
総会・合同役員会／10:30
富山県民会館 会議室702号
懇親会／12:00
富山県民会館 バンケットホール

会員の皆様の出席をお願いいたします。 ※返信の葉書を必ずお出しください。

県民芸術文化祭2024参加　第73回富山県芸術祭主催行事

邦楽鑑賞会

令和6年10月20日(日)　オーバードホール 中ホール

縁が繋がり、また新たな縁に

二代　石垣　征山（せいざん）

まずは出来たばかりのオーバードホール・中ホールにて十月二十日(日)に開催された令和六年度邦楽鑑賞会のご盛会を祝すと共に、その一端に関わらせていただいた事に感謝いたします。運営に関わった皆様には肝を冷やす出来事が我が身内から起こったことに深い謝意を申し上げる次第であります。

開催一日前の講習会、そして翌日の邦楽鑑賞会への参加が急遽決まった中での三日間は、自分のこれまでの人生の中でも『人の縁とは』と考えさせられる日々でした。

そもそも私自身、富山県出身の父・初代石垣征山の早逝が無ければいま尺八を続けていたかも分からぬほど、目隠しの綱渡りの様な奇跡的な人生を送らせていただいていると自覚しております。それには数々のご支援、ご指導、叱咤、激励の上で初めて成り立っていると常々感謝しております。

皆様は私に『急なお話だったのに温かく接していただき良かった』と伝えて下さいましたが、私からすると全くの逆です。急に現れた若造に対しても温かく、そして真摯に向き合って下さり、指導にも食らい付いてきて下さったからこそ『阿波の風』は本番大成功しました。これは他ならぬ皆様の力だと信じて疑っておりません。皆様と出会えた縁に心より感謝いたします。

お陰様で母・石垣清美も日々快方へ向かっており、また本人も以前にまして演奏活動への意欲を強くしていると傍目に感じております。ぜひ母が全快した暁には、清美・征山共々また皆様とお目にかかれればと楽しみにしております。

改めましてこの度はおめでとうございました。

尺八独奏曲「竹の四季」より秋

木の温もりと社中の温もり

蓼　満葉颯（まんようそう）

小唄の世界に入ったのは、一九九八年(平成十年)の秋でした。初めて人前で三味線を弾き、唄った時の緊張感は今も忘れることができません。名前をいただいてからは、満葉師匠のご指導の下、県内の様々な会場において玉葉会社中の皆様方と舞台に立たせていただいております。

今回の邦楽鑑賞会は、昨年開館したばかりのオーバードホール中ホールで演奏できるということで、いつもとは違う期待と緊張感がありました。鑑賞会当日の朝、駅北の駐車場に車を停めて、大ホールを通り抜けて中ホールの扉を開けると、木の温もりを感じる明るくあたたかい空間が目の前に開け、円形の美しくも迷路のような造りに戸惑いながら楽屋へたどり着くことができました。二階の楽屋からは開放感溢れる都会的なオープンテラスへ直接出ることができ、秋の爽やかな風を感じながらお弁当をいただくことができました。

さて、肝心の演奏はというと、毎回のことではありますが、これで完璧だったと言えることはありません。お稽古より本番が上手くいくこともありますが、その反対のことも多々あり……の繰り返しです。小唄は本来、糸も唄も一人ずつで演奏するものですが、大勢が心を合わせ、短い唄の中に粋な世界を表現することは、なかなか難しいことだと実感しています。今回も、演奏後は皆で明るく反省し、師匠の前でも自画自賛、いや皆画皆賛する前向きで明るい玉葉会の温もりを感じながら、さらなる精進を決意する演奏会となりました。

「白扇」ほか三曲

公益財団法人 **都山流尺八楽会**

都山流富山県支部

支部長　東海　煌山

〒933-0837
高岡市上北島39　Tel.0766-24-8691

生田流箏曲宮城社

宮城会

富山地区代表　金盛　知子

〒930-0044
富山市中央通り3丁目4-2　Tel･Fax　076-491-7637

「一生勉強」

小谷　晃子

「数え歌」

平成七年、富山県国民文化祭に間に合うべく建設されたオーバードホール。新婚ホヤホヤの当時の皇太子殿下御夫妻（現在の天皇陛下御夫妻）をお迎えしての前夜祭、大ホールで箏と踊りのコラボで十七絃を演奏した事、あれから三十年、壁面が黒ずんで古くなった建物と新しく建てられた中ホールが寄り添って見え、時の流れを感じながらの中ホールの楽屋入り。

此の度の鑑賞会のために選んだ「数え唄」の作曲者、小野衛先生の言葉「一生勉強」を思い出し、自分にムチ打って出演しました。

この曲の第二部分は、ゆっくりとやさしく奏く中で、たまに出るアクセントのみを繋いでいくと「数え唄」の旋律になっています。合間の音は爪を掠めるように奏かなければならず、下手をすれば聴こえず、爪をまともに絃に当てるとアクセントの旋律が薄れてしまうので、最も集中力を要する奏法で、これまでにない奏法に苦労しました。

人によって異なりますが、一般に、年を重ねると身体は衰えますが、むしろ感性は反比例するのでは…と感じさせる人があります。

一つの事を長くやってきた人は、技術を修得するだけでなく、幅広い教養と感受性が磨かれていくのではないだろうかと考えさせられます。そして、この感性こそ、自分を磨くものとして、先代の家元が言われたように、「一生勉強」につながっていくのでは…と思うこの頃です。

県民芸術文化祭2024参加事業
邦楽鑑賞会に参加して

高堂　瓏水

演奏会当日は今夏の厳しかった日々を忘れさせるほどの爽やかな好天気に恵まれました。勇躍して、重い琵琶と和服の入った旅行バッグを提げて演奏会場に向いました。

新装となったオーバードホール（中ホール）は長年私たちが造って欲しいと待ち望んでいた施設に相応しい豪華なつくりでした。私に与えられた控室は特別出演されるお琴の「石垣清美先生」の控室の隣の一人室でした。私には贅沢過ぎて今日までの努力が報いられた思いがしました。関係者のお心遣いに厚く感謝いたします。会場は、昨今の不穏な社会情勢に比べると平和そのもの。笑顔一杯で幸せを噛みしめておりました。

さて私（八十六歳）のように高齢になりますと親・兄姉・親友・お師匠さんや心の支えであった人々が亡くなり、人生の羅針盤を失ってしまいます。最近そうした漠然とした不安から「やさしい論語（安岡定子著）」という本を拾い読みして居りました。その中にこんな言葉がありましたので紹介します。

「想夫恋」

「之を好む者は、之を楽しむものに如かず」とあります。孔子様が言われたこの意は、「あることを知っていただけの人よりも、それを好きになった人の方がすぐれている。さらにそれを好きになった人よりも、楽しんでいる人の方がもっと優れている」と。知る・好む・楽しむの三つは、物事を究めていく三段階であるとともに、物事を究める極意でもあるとも言えます。

長い年月、千五百年もの間、言葉が途中で消えもせず変化もせず、そのまま伝えられて今日に伝えられていることに驚くとともにこれを自分の座右の銘として大切にして技能向上に努めて参ります。

公益財団法人
生田流正派邦楽会
北陸支部富山地区事務局
河崎　雅都美
〒933-0045　富山県高岡市本丸町4番22号
電話（0766）23－5023　FAX（0766）25－4436

長唄
稀音々会
代　表　稀音家　多祢祐
〒939-8006 富山市山室158－1　Tel・Fax.076－423－0358

憧れの人と同じ舞台で

菖池（しょうち）　陽平

「夢の輪」

令和六年十月六日、沢井箏曲院創立四十五周年記念コンサート「箏の祭典」北陸支部公演が福井市にて開催されました。このような貴重な演奏会に出演させていただいた事、大変感謝いたします。

まず参加させていただいたのは、沢井忠夫先生作曲「つち人形」。富山・福井の若手チームで演奏しました。色とりどりの「Ｓａｗａ·ｉ」Ｔシャツを着て演奏。カラフルで楽しい舞台になりました。

続いては、沢井忠夫先生作曲「砧三章」。こちらは富山研究室のメンバーで演奏しました。合わせるのが難しい曲で、皆で何回も合奏練習をした結果、初めとは比べられないほどテンポ良く、格好の良い演奏に仕上がりました。本番では緊張感を持ちながらも楽しく演奏する事ができました。富山メンバーの熱意がお客様に伝わったのではないかと思います。

そして最後は沢井比河流先生作曲の「夢の輪」。比河流先生、麗先生と一緒に、富山・福井研究室全員での大合奏でした。約四十名での合奏は困難を極めましたが、比河流先生の熱心なご指導により、息の揃った大迫力の演奏になりました。最後には比河流先生の撥が光るサプライズも。

私事にはなりますが、学生時代に箏を始め、比河流先生の曲を聴き、大ファンになりました。憧れの人と同じ舞台で演奏できたことは、生涯忘れられない思い出です。この演奏会での刺激を糧に、今後も練習に励んでいきます。

会員の活動

報告

片山瞠山尺八コンサート
9月23日(月·祝)14:00/福野文化創造センターヘリオス

第59回 錦心流琵琶富山支部演奏会
10月14日(月·祝)13:00/県民小劇場オルビス

小唄 秋のつどい「鳴」玉葉会
10月27日(日)13:00/高岡市文化ホール 小ホール

第5回 茜音会箏コンサート
11月9日(土)13:00/クロスランドおやべセレナホール

案内

春季邦楽演奏会
令和7年3月9日(日)/北アルプス文化センター

片山瞠山の世界5　こきりこ·麦屋·おわら節
令和7年4月20日(日)/富山県教育文化会館ホール

新入会員

長唄……
稀音家
稀音家六公郎（ろくきみろう）

箏曲……
正派邦楽会
寶田　雅利（まさき）
高橋　雅楽舞（うたまい）

沢井箏曲院
金谷　陽子
山岸　悦子
菖池　陽平
大場　健人

あとがき

第二百号記念号を発刊にあたり、「富山県邦楽協会会報」第二輯を手にする機会を得ました。ページを捲るごとに、その時代〻の諸先生方が築いてくださった「今」に感謝するばかりです。そして次の記念号を次世代の邦楽家が発刊してくださるように、今の一号を積み重ねてまいりたいと思います。

（稀音家　義祐）

編集委員

金盛　知子　　橘　龍王山
小坂　智子　　蓼　胡満音
岡本　雅楓冬　稀音家　義祐
年代　雅楽京

二代　米川文子

双調会富山県支部

華糸の会　会主　富士原文以千乃

〒939-2306 富山市八尾町井田412−5
TEL·FAX　076−455−2350

公益社団法人

当道音楽会富山支部

支部長　川倉　美波瑠

〒930-0048
富山市白銀町10番12号　Tel　076−423−0479

琴·三味線　和楽器専門店

村松屋

■高　岡　店　〒933-0026　高岡市片原町1153　☎(0766)22−0172
■富　山　店　〒939-8086　富山市東中野3丁目10-16　☎(076)425−6969
■金　沢　店　〒920-0855　金沢市武蔵町7の20　☎(076)221−8151

錦心流琵琶教授所

嶺　瑛水　高岡市春日丘725　電話 080−637−1791
高堂瓏水　新川郡立山町榎19−4　電話 076−463−2177
有澤結水　高岡市大野671　電話 0766−23−8620